



## 人為的な影響を受けた地域における生物多様性保全

ITTO / IUCN / JICA 共催イベント

2010年6月15日(火) 横浜にて

国際生物多様性年(IYB: International Year of Biodiversity, 2010)の枠組みの下、また2010年10月に愛知県で開催される第10回生物多様性条約締約会議(CBD CoP10)に向けて、国際熱帯木材機関(ITTO)、国際自然保護連合(IUCN)、独立行政法人 国際協力機構(JICA)は生産林を含む人為的影響を受けた地域における生物多様性保全についての公開討論を開催いたします。

### 今回のイベントの目的:

- 熱帯生産林における生物多様性保全のためのITTO/IUCN共同ガイドラインの([www.itto.int/en/policypapers\\_guidelines/](http://www.itto.int/en/policypapers_guidelines/))の普及
- 人為的な影響を受けた地域での生物多様性保全活動の紹介
- 人為的な影響を受けた景観における生物多様性保全のための可能性についての討論

### 対象者:

- 環境機関、各 NGO 及び専門家

### プログラム:

- 開会挨拶:
  - エマヌエル・ゼ メカ (ITTO 事務局長)
  - 古田 尚也 (IUCN シニア・プロジェクト・オフィサー)
  - 吉浦 伸二 (JICA 横浜センター所長)
- 基調講演: 熱帯生産林における生物多様性の保全及び持続可能な利用のための ITTO/IUCN 共同ガイドライン –  
ジェフリー・セイヤー ジェームスクック大学(豪) 客員教授  
(CIFOR 前所長、IUCN 森林保全プログラム前ディレクター)
- プレゼンテーション: 森林復旧コンセッション – インドネシアの報告から –  
イアン・ローランド 熱帯林保全マネジャー 英国鳥類保護協会(バードライフ・インターナショナル、英国)  
アニ・マルダヤストウティ ブルング インドネシア会長
- プレゼンテーション: SATOYAMA イニシアチブ – 人為的な影響を受けた景観における生物多様性保全 –  
中尾 文子 国際連合大学高等研究所 研究員



2010 International Year of Biodiversity

Biodiversity is life  
Biodiversity is our life

